

# 日の丸連合で世界開拓

## 三菱重・日立 電力統合

三菱重工業と日立製作所が電力システム事業を統合する。日本の社会インフラを支えてきたものづくりの両雄が、企業グループの枠を超えて「日

## 縮む国内、依存限界

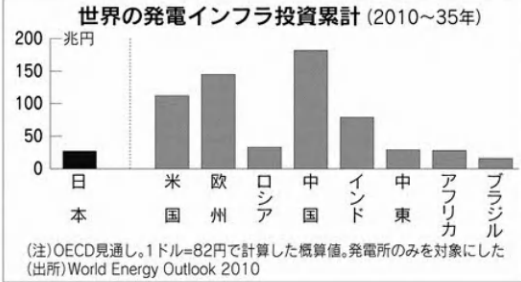
の丸連合」を組む。踏み切らせたのは原子力発電所事故と、世界市場で後れを取る競争力への危機感だ。国内市場が縮小、多くの日本企業は成長の軸足を海外に求めざるを得ない。今回の事業統合をきっかけに他業界でもグローバル競争に挑むための再編が広がりそうだ。(一面参照)

「技術と人材をグローバル市場でいかに最強の組み合わせ」(日立の中西宏明社長)

世界の電力システム会社

	三菱重工・日立製作所連合	米ゼネラル・エレクトリック(GE)	独シーメンス	仏アルストム
事業売上高	約1兆1000億円	約2兆5500億円	約2兆9300億円	約1兆1400億円
営業利益	517億円	約4100億円	約4400億円	約1100億円
特徴	三菱重工は大型ガスタービン世界シェア2割。日立は高効率石炭火力に強み	大型ガスタービンで世界首位争う。世界最高効率のタービンを開発	ガスタービンの豊富な品ぞろえが強み。洋上風力発電で先行	中国、インドなどに先行進出。発電用ボイラーに強み

(注)2011年度実績。三菱重工と日立製作所連合の事業売上高は発表。営業利益は三菱重工「原動機」と日立製作所「電力システム」部門の合算で売上高とベースが異なる。GE、シーメンスは「エナジー部門」、アルストムは送電部門除く



日本の重電メーカーは「工は米ゼネラル・エレクトリック、高品質技術を持つ。た。トリック(GE)と世界最高水準を競う。スタービン。高温に耐え、しかしガスタービン市場はGEなど米国勢が5割、ドイツ勢が3割のシェアを占めるが、三菱重

エアを握り、日本は全社度には比べ半分以下に落ち込んでいる。原発事故をきっかけに非効率な電力市場に競争を導く論議も進んでいる。国内依存の事業モデルは限界を迎えた。2011年度の電力会社間の設備投資額は約2兆円。ピークの1993年増している。電力や水な



事業統合について記者会見する日立の中西社長(左)と三菱重の大宮社長(29日、東京都千代田区)

インフラ輸出を戦略分野に位置付ける中国や韓国勢も台頭している。10年までの6年間で発電能力が日本勢のインフラ設備の受注額はほぼ横ばい。中国勢や韓国勢はそれぞれ4倍に増やしている。三菱重工と日立が世界で戦うための解とした事

業統合には、もう一つのメリットがある。日本の重電事業は海外メーカーからの技術導入で始まった。今もそのくびきから逃れられていない。しかし今回の統合で自社に欠けている製品が補完できるように、独自技術で高い利益率を誇るGEやシーメンスに対抗する体制が整う。グローバル市場に活路を見いださねばならないのは、すべての企業に共通する。生き残りには世界上位に名を連ねることが条件だ。10月には新日本製鉄と住友金属工業が合併、世界2位の鉄鋼メーカーが誕生した。ソフトバンクは米スプリント・ネットワークスを買収、携帯電話事業で国内3位から世界3位となった。日本では乗用車8社、電機も大手まで含めると10社以上が今もひしめく。国内市場に依存した業界体質は残ったままだ。グローバル競争に立ち向かう体制をどう築くのか。今回の再編は過当競争が続く日本企業に課題を突きつけている。(編集委員 松尾博文)